

## 土木鋼構造診断士「更新」のための調査報告書提出について

- 調査報告書：原則(1)の業務経験を提出下さい。やむを得ない場合に限り(2)または(3)を選択できます。いずれもA4版用紙2頁(40字×40行/頁)に図表、写真をレイアウトしてまとめる。

- (1) 業務経験の記述(原則として資格期間中の経験とする)
- (2) 調査、診断等の報告の記述:周辺にある土木鋼構造物の目視調査等の調査報告とする。
- (3) レポートの記述:レポートは次の4つの課題から2題を選んで提出する。

なお、選択した課題番号を「原稿の書式」に従い記載する。

1課題1枚(40字×40行)×2課題

<b>(3)レポート提出課題</b>	
課題1	主に1960年代の高度成長期に建設された鋼トラス構造物等の点検を行う場合、どこに重点を置いた点検計画を立案するか、併せて、このような構造物を診断する場合、どのような損傷が重大であるかをそれぞれ述べ、点検計画との関連性についても説明せよ。
課題2	現在、土木鋼構造物の点検は目視による点検が主体であるが、実構造物では全ての部位を、目視で直接的に観察できない場合が多い。このように直接見えない部位を診断する場合、あなたはどのようなプロセス、およびポイントで評価するか、また、その場合の課題も併せて述べよ。
課題3	鋼構造物の診断、または維持管理に係わる業務の現状において、技術的側面あるいはそれ以外の面(体制、制度等)から、改善が必要と思う事項の概要と課題をとりまとめ、その対策について、あなたの考えを述べよ。
課題4	予防保全(計画的保全)と事後保全について、両者の特徴を含めた基本的な考え方をそれぞれとりまとめ、併せて両者を適切に組み合わせた維持管理のあり方について、課題等を含めて述べよ。

- 調査報告書の内容及び執筆に際しての留意事項:

①調査報告書には「土木鋼構造診断士」として相応しいと考えられる業務経験を記述することを原則とする。

なお、土木鋼構造診断士として適当な業務に携る機会が得られなかった資格者は、上記(2)調査、診断等の報告または(3)レポート提出でもよい。

②報告する業務経験が執筆者個人で行なった業務か、グループで行なった業務かを明記する。グループの場合には、できるだけ執筆者が中心となって行なった業務について記述する。

③写真、図を利用して、できるだけわかり易く記述する。

- 調査報告書の取り扱い:

調査報告書は、原則非公開とし、調査報告の評価以外の目的には使用致しません。

- **優秀調査報告書:**
  - (1)の業務経験報告の中から「優秀調査報告書」を選出し、ご本人の承諾を得て、平成23年度の「更新講習会」での報告並びに協会ホームページへの掲載を予定している。  
また、承諾のあった優秀調査報告書には「賞状」を授与する。
  
- **原稿の体裁** :原稿はワードプロセッサ等で作成したA4版2ページ((40字×40行)／頁)とし、図、表、写真が適切にレイアウトされたPDFとする。
- **原稿の書式** :原稿の書式は協会のホームページでお知らせする書式に従い、内容をわかりやすくまとめる。  
右上段:登録番号 SIDE—○○○○○  
中央にタイトル名
  1. はじめに
  2. 本文:図、表の表示は、図—1タイトル／表—1タイトルと表示し、本文の近いところに配置する。
  3. まとめ
  
- **提出方法・提出先** :
  - 下記、いずれかの方法で提出のこと
  - メールによる提出:件名を「**診断士更新資料提出**」として下さい。  
また、調査報告書をPDFにして下記のアドレスに送る。  
但し、各自で事務局宛PDF原稿が届いているかを確認する。  
mail:shindan.koshin@jssc.or.jp  
**PDFファイル名**の付け方は下記とします。  
**受講地区—更新受講番号**  
「東京」または「大阪」—○○○○ ⇒例えば:東京—0001 (PDF)
  - 郵送による提出:紙焼きした「調査報告書」1通を下記に郵送する。  
〒160-0004  
東京都新宿区四谷3-2-1 四谷三菱ビル9F  
社団法人日本鋼構造協会  
土木鋼構造診断士特別委員会 行
  
- **提出期限** :平成22年10月29日(金)必着
  
- **合否の通知**:  
合否の通知は、平成23年2月上旬ごろに各自宛て(勤務先)に郵送致します。